

百の頂きに百の喜びあり

山岳部

私たち秋田高校山岳部は、1年生3人のみで日々楽しく活動しています。現在部内に2、3年生はいませんが、顧問の先生やOBの方々から教わったりして、充実した日々を過ごしています。

山岳部は、多くの方が思っているようにただ山に登るだけの部活ではありません。山に関する知識や高山植物、山の気象について学び、天気図の作成などの活動もしています。3年生が引退してしまい、2年生がいないので、技術面で足りないところを補うことが課題です。

現在私たちは大会に向けて、毎日練習に励んでいます。大会は原則1パーティ4人で参加です。今は男女とも人数が不足しています。しかし、個人表彰がある大会では、個人で知識部門第1位、観察部門第1位と優秀な成績を残すことができました。現在の私たちの目標は、部員を増やしてインターハイに出場することです。そのため山に登れないシーズンでもランニングや天気図作成など日々の鍛錬を怠らずに、勉強との両立に努めたいと思います。また、新人部員の勧誘にも力を入れていきたいです。同窓生の皆様も知り合いに在校生がいっしょにいましたら、是非お声がけいただければと思います。よろしくお願います。



5月27日、全県総体の下見登山

これからも、支えてくれるOBの皆様や保護者の方々、土日も山へ引率して下さいる先生方への感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいです。
〔1B 中來田 穂穂、1D 那須 寿明、1D 羽川 宗佑〕

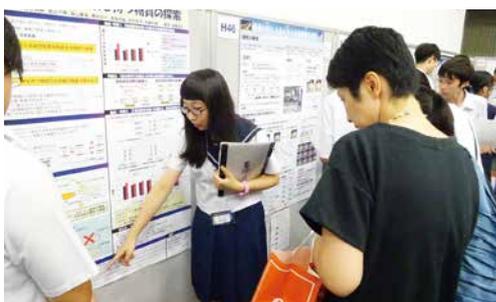
生命と向き合う楽しさ、新しい発見をする楽しさ

生物部

秋田高校生物部は、今年度から博士号教員である遠藤金吾先生を迎え、生物飼育班・研究班からなる物好きたちが集まった一風変わった部になりました。動物と菌：向き合う対象は異なれど、共に「生命」と向き合いながら活動しています。

秋田県の抱える問題としてがん死亡率の高さがあり、がんの原因の一つとして遺伝子の突然変異が挙げられます。私たちは秋田県のがんの問題を解決するために、酵母菌を用いて食品成分中から突然変異を抑制する物質を探る研究をこの春から始めました。実験器具もあまり使ったことがない初心者揃いでしたが、今では「Science」の世界にどっぷり浸かっています。

8月には日本進化学会で研究成果を発表しました。東京に向かう新幹線の車内では初めての発表を前に緊張していたものの、いざ発表が始まると大学の先生や大学院生の方々が私たちの発表を聞きに来て下さる（＝興味を持って下さる）のが嬉しく、今後の研究につながるような議論もでき、楽しく発表を終えることができました。そして審査の結果、優秀賞を受賞することができ、「春から研究を始めたばかりなのに、まさか!」と感動しました。動物が餌を食べる可愛さも、シャーレに生えた酵母菌のいじらしさも同じで、根気よく向き合っていれば、動物にも菌にも愛着が湧いてきます。私たちは生命を愛でる楽しさを感じつつ、今後世界でまだ誰も見つけていない発見ができるよう、研究を続けていきたいです。
〔1A 田中 美月〕



日本進化学会におけるポスター発表の様子
8月27日、東京工業大学にて

事務局通信

今年のノーベル医学・生理学賞の有力な候補に同窓生の名前が挙がっている旨の知らせが、発表の1週間前に全国紙の秋田支局からありました。

残念ながら、今年の賞にはなりませんでしたが、候補になっただけでもすばらしいことだと思っています。来年以降の吉報を待ちたいです。

各界での同窓生の活躍の報をうれしく思いながら記録しています。

編集後記

記念号の今回は創刊号から今号までだより100号の表紙を、題字込みの一部ながら一挙掲載するとともに、発行にまつわる歴史を振り返って見た。諸先輩の無私の精神と苦難に頭が下がる思いだ。人口減少が著しい秋田県の処方箋をどう構想するか、同窓各位の識見を特集した。さすがどれも鋭い視点から放たれた卓見ばかり、現役生徒からも傾聴に値する頼もしい提案が寄せられた。義を見て為さるは勇なきなり、か。(半可通)